

篠田桃紅美術空間からのお知らせ

後藤昭夫回顧展 ― 1960年代を中心として

開催中の企画展「後藤昭夫回顧展―1960年代を中心として」でご紹介している後藤昭夫さんは、1959年に結成された関市の前衛芸術家集団VAVAのメンバーの一人です。

グループVAVAは、その独自の主張に基づき活発な活動で、当時の美術界で広く注目を集めました。特に、1965年に企画主催した『アンデパンダン・アート・フェスティバル（現代美術の祭典）』は、長良川河畔と岐阜市民センター（および金公園）の2会場に全国から300あまりの作家の出品があり、大きな波紋を投げかけました。後藤昭夫さんは、アンデパンダン展の野外会場に、風と光を利用した作品「まわる」を、屋内会場には、今回展示をしている作品「op65_31」を出品しました。「op65_31」は、鮮やかな色で幾何学模様が描かれた2枚の亚克力板が、モーターでゆっくりと回転し、不思議な連続模様を作り出します。それまでの「絵画」の枠にはまらない、新しい試みの作品として高

い評価を受けました。

今展では、行動展入選を重ねていた初期の油彩作品から、「碍子シリーズ」、 「テンション・アート」までをご紹介し、独自の作品を提示しつづける後藤昭夫さんの1960年代までの歩みを辿ります。

- ・会 期：5月27日(日)まで
- ・入館料：高校生以上300円、中学生以下無料
- ・休館日：5月1日(火)・7日(月)・14日(月)・21日(月)
- ・開館時間：午前9時～午後4時30分
- ・照会先：篠田桃紅美術空間 (市役所7階) ☎23-7756

掲載図版 「op65_31」1965年



ひとひと
女と男

ともに自分らしく生きよう

男女共同
参画社会



vol.92 シニアライフと男女共同参画 知って「協奏」いきいき15万時間

3月に地域女性の会連合会役員会で、コピーライターかみう せたかしの上鶴瀬孝志さんを講師に招き、出前講座を行いました。

平均寿命から考えると、定年後に男性は10万時間、女性は15万時間を過ごすことができます。働いているときには、さまざまな場面で人と競争し社会の一員となってきましたが、この時間をいきいきと過ごすためには、これからは「競争」ではなく「協奏」していくことが大切だと話されました。「協奏」とは、1人だけ目立つのではなく、周りの人と協力して奏で合うことです。

この講座を受けてみて、私も地域での活動、ボランティアなどに進んで参加したくなりました。夫や友人も誘いたいです。

皆さんも定年後、パートナーや友人と地域活動などに参加してみたいですか。

このような出前講座は、私たちさんかくサポーターが毎年行っています。男女共同参画をいろいろな面から学び、それを職場、家庭、地域、学校などで大きく広げる活動ができれば素晴らしいのではないかと思います。

あなたも、私たちさんかくサポーターと一緒に活動しませんか。

さんかくサポーター<U>

照会先 さんかくサポーター事務局 (市民協働課内) ☎23-6831